

教育制度論(新課程)の課題と成果

学校教育講座 露口健司

I. 授業の目標と概要

本授業の目標は次の2点である。すなわち、①教育の社会的、制度的又は経営的な事項についての基礎概念を理解し、説明できること、②今日の教育政策・教育改革の動向についての理解を踏まえ、それらの意義・効果や問題点について、自らの考えを論述・表現できることである。

これらの目標を達成するために、本授業では、次の4つの過程から成る授業構成を採用している。第1は、「学習課題設定」である。冒頭の5分間を、本時における学習課題の提示と理解にあてている。課題の発見と改善策の提案が、各テーマに共通する課題である。第2は、「講義」であり、40分間、課題解決に必要な基礎的な法概念・知識が提供される。第3は、「個別思考活動」である。15分間で、自分の意見を400字程度にまとめる訓練を毎回実施している。第4は、「グループ協議」である。同じく、15分間、グループ協議を行い、意見を集約する。第5は、「表現活動」である。残りの15分間の枠を使う。各グループより、発表内容がエントリーされ、それらの中から授業者が5件に絞り、発表してもらう。発表内容は、独創性・有用性・表現力の視点から学生相互が評価する。そして、第6に、「教室外学習」である。各グループの発表に対するコメントやグループ活動の反省を400字程度でまとめる作業が教室外学習として課される。学生は、教室外学習を含めて、毎回B4で1枚のワークシート(右写真参照)を完成させなければならない。なお、授業は1回毎に完結する。

II. 授業内容

平成21年度は、下記に示すテーマを選択した。テーマは毎年、変更している。

1. ガイダンス
2. 教育課程の法制度(1) 教育目的・目標
3. 教育課程の法制度(2) 教育課程編成
4. 教育課程の法制度(3) 教科書

5. 教師と法(1) 教員免許
6. 教師と法(2) 教員採用と初任者研修
7. 教師と法(3) 教員の職位
8. 教師と法(4) 教員の勤務
9. 教師と法(5) 生徒指導の法制度
11. 教師と法(6) 教員の服務
12. 教師と法(7) 研修体系
13. 学校経営と法(1) 学校評価と目標管理
14. 学校経営と法(2) 学校選択制度
15. まとめと試験

III. 授業過程

講義は、パワーポイントとプロジェクターを活用したプレゼン方式で行われる。データカードをセットしており、WEB上の情報も、随時提供している。

グループを基礎とした演習が半分含まれている。協議の際に意見を言わなければならないため、学習に向かうモチベーションは高くなる。居眠り等は必ず注意する。それはグループのメンバーに迷惑をかけるからである。

無断欠席、遅刻は減点。机の上に飲食物は置かない。帽子は脱ぐ等、学習規律を徹底している。

IV. 評価

「日常的の努力(45%)」「学習成果(45%)」「期待を超える成果(10%)」の3つの視点から評価を行っている。日常の成果は、毎回作成するワークシートの出来映えで評価する。学習成果は、最終テストにて評価する。『教育六法』のみを持ち込み可とする論述中心のテストであり、学生にとってはややハードルが高いテストである。期待を超える成果は、毎回5チームが選ばれる発表機会における相互評価である。

V. 授業目標の達成度

授業目標の達成度を測定するために、質問紙

調査を最終日のテスト終了後に実施した。昨年度も同様の調査を行っているため、経年比較が可能である。質問項目(“ひじょうにあてはまる”～“全くあてはまらない”までの4件法)及び分析結果は表1の通りである。

平成20年度に比べ、平均値は全体的に微増している。自由記述においても肯定的な感想が多く、特にグループ協議の意義についての言及が顕著であった。

ただし、統計的に有意な上昇が認められているのは「教師になりたい」という意識の向上である。これは、昨年度より0.28点上昇している。前回あまりにも低かったため、教職の魅力や折に触れて語るなど、教職動機の維持・向上にはかなり配慮した。

4件法であれば、3.20が80%ラインであり、これを割り込んでいる項目を課題として捉えたい。「教育法規に対する関心」「自分の意見を明確に表現する能力」「教職動機」あたりであろうか。

VI. 学生からの改善提案

質問紙調査では、あわせて「授業に対する試験や感想」を求めている。その中で、いくつかの改善課題が示されている。

①グループ編成：成績処理の観点から、出席番号順に編成している。また、初日に欠席した者は、別に連合チームに組み込まれてしまうのだが、この点に対する改善意見があった。⇒1年生の時期には、同専修のメンバーと親交を深めることが大切であると考えられる。また、成績処理を効率的に行う上でも、出席順の編成は変更しづらい。

②発表者の選考：全19グループからのエントリーシートを、授業者が5グループに絞るのであるが、ほとんど選ばれなかったグループからの意見が出ている。⇒エントリーシートを改善する。現在は、白紙を使用しているが、「グループ番号」「テーマ」「概要」をそれぞれ記入するようなオリジナルシートを開発する。

③全体協議の集約：各グループは1分程度で発表を行うが、その内容を議論し、深めることができない。言いつばなしになっているとの意見が寄せられた。⇒授業者が最後に、指導・助言のような形で議論を集約するよう努める。

表1 質問紙調査結果

	H20 (N=89)		H21 (N=89)		F
	M	SD	M	SD	
1. 学校・教師の実情が理解できた。	3.42	.62	3.46	.60	.24
2. 学校の教育活動の根拠となっている基本法規について理解できた。	3.17	.59	3.25	.55	.85
3. 教育法規に対する関心が高まった。	2.97	.75	3.07	.65	.93
4. 法律の視点で、学校教育を理解しようとする意識が高まった。	3.07	.62	3.25	.66	3.44
5. グループでの効果的な議論の方法が習得できた。	3.21	.75	3.33	.72	1.05
6. 自分の意見を明確に表現する能力が高まった。	3.01	.73	3.10	.69	.71
7. 短時間で自分の意見をまとめて「書く」能力が高まった。	3.21	.71	3.26	.68	.18
8. 「教師になりたい」という意識が高まった。	2.46	.83	2.74	.75	5.66*

note : * p < .05.